

I 実践

1 本校の人権教育の目標

(1) 経営方針

- ア 人権に対する理解と認識を高め、各教科、道徳、特別活動など学校生活全体の中で、人間的な触れ合いを通しての平等意識や人権尊重の精神の育成を目指す。
- イ 地域、学校及び生徒の実態を把握して人間関係の改善を図り、言語環境を整えることで意欲的に生活や学習ができる集団づくりを目指す。
- ウ 互いに信頼し、思いやりの心を持って生活できる集団づくりを目指す。

(2) 施策

- ア 全職員の共通理解の下に指導体制を確立する。
- イ 生徒の実態や悩みなどを日記指導・教育相談や日々の観察等を通して的確に把握し、個に応じた指導をする。
- ウ 職場体験・文化祭など各種行事や活動を通して感謝の心や思いやりの心を育てる。
- エ 「人権教育指導資料」を活用した授業作りを行う。
- オ 授業参観、保護者会、家庭訪問、学年通信等を通して、保護者への理解・啓発を促す。

2 実践内容

(1) 学校での取り組み

ア 人権コーナーの設置

身近な人権問題と国際的な人権問題をポスター形式及び読み物で掲示し、人権に関する諸問題について啓発した。

イ あいさつ運動の実施

生徒会、生活委員会、PTA、一部部活動ボランティアの参加により、定期的なあいさつ運動を実施した。あいさつの大切さを知り、心のこもった気持ちのよいあいさつができるようにするとともに、生徒同士、教師と生徒、保護者と生徒があいさつをすることによって心を通わせ、好ましい人間関係を作ることができるようにすることをねらいとして行った。

(2) 学年での取り組み

ア Q-Uアンケートの実施

学級集団全体の状態をデータとして把握するとともに、特別に支援を必要とする生徒を把握するために1、2年生が5月・11月に実施している。5月の実施結果をもとに、分析を行い実行する。再び11月に実施し、前回と比較し、人間関係の改善状況を把握し、次の改善につなげた。

イ 1学年で地域交流教室を実施

地域の方の協力のもと、ベーゴマ、けん玉、ゴム跳び、竹馬、竹とんぼなど昔の遊びを体験した。地域の方々との直接の交流の場を設定したことや、その後のお礼状の作成などを通して、温かみのある人間関係を育んだ。

ウ 1学年で人権作文を通しての啓発

夏休みの課題として、各学級で人権作文を課題とした。夏休みのしおりにも明記し、各家庭で「人権の大切さ」について子どもと一緒に考える機会とした。

エ 2学年で鶴鳥舞の実施

学年全体での鶴鳥舞を通して、仲間との協調や郷土への理解・誇りなどの感情を育てた。また、1学年への部活動単位の継承から信頼関係の醸成や思いやりの心を育んだ。

オ 3学年での社会科公民的分野での授業実践

単元「日本国憲法と人権」の第2時「人権の歴史」にて世界の人権に関する歴史を概観し、人権を知識・理解面から整理した。教材としてICTを活用し、ユナイテッドフォーヒューマンライツによる動画「人権の物語」を導入に利用し、人権の歴史に関する生徒の興味・関心を引くことができた。

カ 委員会活動による敬老会へのボランティア活動参加

十王地区敬老会にボランティア委員会の有志が参加し、付き添いや誘導などを行い、地域の高齢者の方々との交流を深めるとともに、人の役に立つことで感謝される経験をすることができた。

3 成果

- ・あいさつ運動では、当日だけにとどまらず普段からの全職員による生徒へのあいさつや声掛けを行うことにより「一人一人かけがえのない存在であり、尊重し合うことの大切さ」について職員を含め全校生徒で確認することができた。
- ・体験活動や学校行事等を通して、同学年との交流だけでなく、上級・下級学年や地域の人たちとの交流が図られ、思いやりや優しさといった人権意識を醸成することができた。

II 今後の課題

生徒が身に付けた互いに信頼し、思いやりをもって生活する態度をさらに確かなものにするため、各教科・特別活動での授業実践や地域との交流を継続していきたい。

III 人権コーナー設置の様子



右側の問いへの答え8種類をイラストで説明している

仮想の街の様子が描かれたイラストから人権の観点で「人にやさしいところ」「気になるところ」を見つける問い

世界人権宣言の内容をイラストで説明するコーナー

人権の歴史や諸問題について詳細に説明した読み物を掲示